

# 『女がペンを執る時—19世紀フランス・女性職業作家の誕生』

はじめに

## 第一部 男性作家から見た女性作家像

### 第一章 「女流作家」への眼差し

1. バルザックの『女流作家』
2. ブルーストッキング(bas-bleu)
3. 女流作家と性的メタファー

### 第二章 「女性作家」のイメージバルザックのサンド像

1. ジョルジュ・サンドとカミーユ・モーパンの類似性
2. 女性作家の「怪物性」
3. 優れた女性作家の悲劇
4. 「怪物性」または母性愛の欠如

## 第二部 国王の養育掛から職業作家へ—ジャンリス夫人

### 第一章 オルレアン家の養育掛

1. 地方貴族の娘
2. パレ・ロワイヤル参内
3. ベルシャスへの移住
4. オルレアン家の養育掛に就任
5. ルイ・フィリップの教育

### 第二章 職業作家への転身

1. フランス革命の勃発
2. ジャコバン教育
3. 亡命生活

### 第三章 フランス帰国後の文学活動

1. ナポレオンとの関係
2. ジャンリス夫人とスタール夫人
3. ジャンリス夫人とロマン主義運動
4. 『回想録』の出版

### 第四章 ジャンリス夫人の女子教育論—『アデルとテオドール』

1. 教育と教育者の絶大な力
2. 女子教育と貴族教育についての見方
3. 管理的な読書プログラム
4. ジャンリス夫人の教育論の近代性
5. 良妻賢母教育とブルジョワ道徳
6. 没後の評価

### 第三部 「ロマン派のミューズ」からジャーナリストへ—デルフィーヌ・ド・ジラルダン

#### 第一章 「ロマン派のミューズ」

1. デルフィーヌの母ソフィ・ゲイ
2. 詩人としての名声
3. 「ミューズ」としてのデルフィーヌ

#### 第二章 サロンの女王

1. エミール・ド・ジラルダンとの結婚
2. サロンの女主人
3. 「ロマン派のミューズ」の象徴的な死

#### 第三章 ジャーナリスト・ローネイ子爵の誕生

1. 『バルザック氏のステッキ』
2. バルザックによるデルフィーヌの評価
3. 「パリ通信」の連載
4. 「パリ通信」の戦略—「おしゃべり」

#### 第四章 政治的発言とその反響

1. ジラルダン擁護の記事
2. 2月革命の勃発
3. 体制批判とそれへの反発・弾劾

#### 第五章 晩年の執筆活動

1. 戯曲の執筆
2. 神秘思想への関心
3. デルフィーヌの死

### 第四部 「パリアの作家」誕生—フロラ・トリスタン

#### 第一章 ペルーへの出発までの半生

1. 「名門の血」と「庶民の血」
2. シャザルとの結婚
3. 「パリア」としての自覚
4. ペルー行きへの決心

#### 第二章 ペルーへの旅

1. メキシカン号
2. アレキパ滞在一叔父との邂逅
3. リマ滞在
4. 「遍歴」の意味するもの

#### 第三章 『ある女パリアの遍歴』—真実の記録

1. 『遍歴』の序文
2. 「良心的な旅行者」

3. ペルーの女性

第四章 フロラ殺害未遂事件

1. 『外国人女性を歓迎する必要性について』
2. 『ある女パリアの遍歴』の出版とその反響
3. 夫との確執
4. 社会主義小説『メフィス』の出版

第五章 『ロンドン散策』—恒久的貧困を「見る」

1. 労働者階級に関する3つの著作
2. 労働者階級と「パリア」
3. 急進的な社会思想
4. 「見る」ことの重視
5. 売春に関する考察
6. 客観的観察とロマン主義の融合

第六章 労働者階級の解放に向けて

1. 『労働者連合』の執筆
2. 「女の救世主」
3. 没後の忘却から再評価へ
4. サンドとの友情と隔たり

おわりに

参考文献